

氏名	鈴木 誠	部署	作業療法学科	職名	教授
研究分野	リハビリテーション科学				
学位	博士（リハビリテーション療法学）				
学歴	1992年中央大学経済学部，1996年国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院，2002年筑波大学大学院教育研究科修士課程，2004年名古屋大学大学院医学系研究科博士課程				
経歴	1999年聖マリアンナ医科大学附属病院リハビリテーション部作業療法士，2009年新潟医療福祉大学医療技術学部講師，2012年新潟医療福祉大学医療技術学部准教授，2013年北里大学医療衛生学部教授，2018年東京家政大学健康科学部教授				
所属学会（役職）	日本作業療法士協会（演題審査委員），日本作業療法研究学会（副会長，理事），日本行動分析学会，日本臨床神経生理学会，行動リハビリテーション研究会（理事，編集委員），リハビリテーションのための応用行動分析学研究会（理事）				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Predicting independent dressing after stroke using path and neural network analyses.	共著	あり	○	Medicine (Baltimore) 105(8):e47677.	Shotaro Sasaki, <u>Makoto Suzuki</u> , Yoshitsugu Omori, Seiichiro Sugimura, Junichi Yamamoto.	2026.2
2	上肢筋力の低下したパーキンソン病患者の起き上がり動作練習: 人工知能行動解析システムを用いた動作解析.	共著	あり		行動リハビリテーション2026; 14: 7-10.	中山智晴, 山崎裕司, 鈴木誠, 山本淳一, 松下拓也.	2026.3
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	Optimizing daily bilateral hand movement through rhythmic brain stimulation: a neuro-behavioral perspective.	共同	12th International Conference, Association for Behavior Analysis International		○Nanaka Arihara, <u>Makoto Suzuki</u> , Naoki Iso, Takuya Matsumoto, Kazuo Saito, Junichi Yamamoto.		2025.11
2	A new development of behavioral rehabilitation for motor learning by an AI computing system.	共同	12th International Conference, Association for Behavior Analysis International		○Junichi Yamamoto, Kazuo Saito, Kilchoon Cho, Takuhiro Okabe, Naoki Iso, <u>Makoto Suzuki</u> .		2025.11
3	Validation of a real-time visual prompt fading system using virtual reality for rehabilitation.	共同	12th International Conference, Association for Behavior Analysis International		○Naoki Iso, <u>Makoto Suzuki</u> , Takuhiro Okabe, Kilchoon Cho, Kazuo Saito, Takuya Matsumoto, Takuya Higashionna, Junichi Yamamoto.		2025.11
4	Modulating auditory discrimination through electromagnetic stimulation: integrating neuroscience and behavior analysis.	共同	12th International Conference, Association for Behavior Analysis International		○Kilchoon Cho, <u>Makoto Suzuki</u> , Kazuo Saito, Naoki Iso, Takuhiro Okabe, Takuya Matsumoto, Junichi Yamamoto.		2025.11
5	Behavior measurement system using kinematics and dynamics: feasibility evaluation by professional occupational therapists.	共同	12th International Conference, Association for Behavior Analysis International		○ <u>Makoto Suzuki</u> , Takuya Matsumoto, Kazuo Saito, Naoki Iso, Takako Suzuki, Takuhiro Okabe, Airi Tsuji, Junichi Yamamoto.		2025.11
6	Effects of Visual Perturbation on Postural Control Behavior Using Virtual Reality.	共同	51th Annual Convention, Association for Behavior Analysis International		○Naoki Iso, <u>Makoto Suzuki</u> , Takuhiro Okabe, Kilchoon Cho, Kazuo Saito, Takako Suzuki, Takuya Matsumoto, Nanaka Arihara, Junichi Yamamoto.		2025.5

7	The effect of rhythmic brain stimulation on brain network and behavior for bilateral movements.	共同	51th Annual Convention, Association for Behavior Analysis International	○Nanaka Arihara, <u>Makoto Suzuki</u> , Naoki Iso, Takuya Matsumoto, Kazuo Saito, Junichi Yamamoto.	2025.5
8	Enhancing auditory discrimination: a neuro-behavioral strategy toward dementia prevention.	共同	51th Annual Convention, Association for Behavior Analysis International	○Kilchoon Cho, <u>Makoto Suzuki</u> , Kazuo Saito, Naoki Iso, Takuhiro Okabe, Takuya Matsumoto, Junichi Yamamoto.	2025.5
9	Causal analysis of daily behaviors and sleep quality through week-long wearable device evaluation.	共同	51th Annual Convention, Association for Behavior Analysis International	○Takuhiro Okabe, <u>Makoto Suzuki</u> , Kazuo Saito, Naoki Iso, Kilchoon Cho, Takuya Matsumoto, Takako Suzuki, Junichi Yamamoto.	2025.5
10	Direct Measurement of Daily Behaviors: Estimating Joint Angles and Moments through Artificial Intelligence.	共同	51th Annual Convention, Association for Behavior Analysis International	○ <u>Makoto Suzuki</u> , Takuya Matsumoto, Kazuo Saito, Naoki Iso, Takako Suzuki, Takuhiro Okabe, Airi Tsuji, Junichi Yamamoto.	2025.5
11	脳卒中上肢運動障害に対する作業療法の 新展開: 脳刺激と人工知能の応用可能性.	単独	第59回日本作業療法学会 (教育セミナー)	○ <u>鈴木誠</u> .	2025.11
12	ウェアラブルデバイスとAIを用いた睡眠行動ダイナミクスの解明.	共同	第33回インテリジェント・システム・シンポジウム (シンポジウム)	○岡部拓大, <u>鈴木誠</u> , 斎藤和夫, 磯直樹, 趙吉春, 松本卓也, 鈴木貴子, 在原菜々花, 山本淳一.	2025.9
13	連合性ペア刺激が切り拓く: 革新的聴覚リハビリテーションと認知症予防.	共同	第33回インテリジェント・システム・シンポジウム (シンポジウム)	○趙吉春, <u>鈴木誠</u> , 斎藤和夫, 磯直樹, 岡部拓大, 松本卓也, 鈴木貴子, 在原菜々花, 山本淳一.	2025.9
14	両手の協調運動を改善する革新的神経行動学技術.	共同	第33回インテリジェント・システム・シンポジウム (シンポジウム)	○在原菜々花, <u>鈴木誠</u> , 磯直樹, 松本卓也, 斎藤和夫, 岡部拓大, 趙吉春, 鈴木貴子, 山本淳一.	2025.9
15	応用行動分析学の研究成果を国際学術誌に掲載する方法: リハビリテーションにおける単一事例研究の推進.	単独	日本行動分析学会第43回年次大会 (シンポジウム)	○ <u>鈴木誠</u> .	2025.8
16	Effect of transcranial static magnetic stimulation on rhythmic finger movements during mirror visual feedback.	共同	51th Annual Convention, Association for Behavior Analysis International (Symposium)	○Takuya Matsumoto, <u>Makoto Suzuki</u> , Nanaka Arihara, Kilchoon Cho, Naoki Iso, Takuhiro Okabe, Kazuo Saito, Jun'ichi Yamamoto.	2025.5
17	Brain network dynamics for expectation and reinforcement in three-term contingency.	共同	51th Annual Convention, Association for Behavior Analysis International (Symposium)	○ <u>Makoto Suzuki</u> , Honoka Fukasawa, Takako Suzuki, Takuya Matsumoto, Naoki Iso, Takuhiro Okabe, Kilchoon Cho, Jun'ichi Yamamoto.	2025.5
(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者 (発表者は○印)	発表等年月
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究C)	身体誘導における患者とセラピストの脳活動相互作用: 運動学習を促進する新しい練習法		研究分担者	2024.4~2028.3

2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	クロスリアリティを活用したインタラクティブ技術教育システムの開発と効果検証	研究分担者	2024.4～2028.3
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	統合失調症患者の運動学習を改善する新しい練習法：脳刺激と仮想現実による相乗効果	研究分担者	2024.4～2028.3
4	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）	リハビリテーションに対する動機づけ創発メカニズムの解明と個別化介入モデルの開発	研究分担者	2025.4～2029.3
5	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）	小脳と運動野のネットワーク活動を促進する交流電気刺激法：滑らかな運動の改善効果	研究代表者	2023.4～2027.3
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	生活と作業療法学	○	14	生活活動に関する評価と支援の方法，福祉用具や住宅改修の方法、医療保険制度、介護保険制度、労働災害補償制度について教示した。基礎的な知識を臨床に応用する能力を養うため、臨床において直面する状況を想定した双方向的なディスカッションを取り入れた授業を実施した。
2	作業療法管理学		14	保健医療福祉に関する制度を理解し、組織運営に関するマネジメント、リスクマネジメント、人材育成などリハビリテーションサービスを提供する上で必要な管理運営の基礎について教示した。授業内容と国家試験問題を関連付け、国家試験に対応した授業を実施した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	研究法	○	14	研究倫理、研究デザイン、文献の読解、解析、論文執筆について教示した。最新の研究や論文を多く紹介し、科学的・論理的な思考を養うとともにディスカッションを取り入れた授業を実施した。
2	生活と作業療法学演習	○	14	生活障害に対する評価と支援の方法について知識を深めるとともに、演習を通じて食事、整容、トイレ、入浴、調理、掃除、洗濯、買い物といった生活行動に対する具体的な支援方法について教示した。基礎的な知識を臨床に応用する能力を養うため、臨床において直面する状況を想定した双方向的なディスカッションを取り入れた授業を実施した。
3	キャリアデザイン		9	女性のライフサイクルを考慮したキャリア設計をする力を身につけるために必要な知識や能力を段階的に教示した。実際の状況を想定した双方向的なディスカッションを取り入れた授業を実施した。
4	キャリアデザインⅠ		5	女性のライフサイクルを考慮したキャリア設計をする力を身につけるために必要な知識や能力を段階的に教示した。実際の状況を想定した双方向的なディスカッションを取り入れた授業を実施した。
5	作業療法セミナー	○	28	授業内容と国家試験問題を関連付け、国家試験に対応した授業を実施した。また、国家試験学習のためのインターネット・コンテンツを作成し、学生の自主学習を促進した。
6	卒業研究	○	56	研究法で修得した研究の基礎知識を基に、学生個々またはグループで研究テーマを掲げて、実際に研究を実施した。教員と学生はゼミ形式をとり、それぞれのテーマに沿って研究をすすめ、最後は論文として完成させた。

7	ニューロリハビリテーション特論	○	14	環境に応じた脳の入出力処理を最適化するニューロリハビリテーション法について解説するとともに、脳の入出力処理に関する障害について解説した。最新の研究や論文を紹介し、科学的・論理的な思考を養うとともに議論を取り入れた授業を実施した。
8	リハビリテーション科学特論	○	14	人の活動を多角的に計測および解析するための方法について解説した。最新の研究や論文を紹介し、科学的・論理的な思考を養うとともに議論を取り入れた授業を実施した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	地域見学実習		16	施設を見学し,その施設の目的・機能、および作業療法（士）・理学療法（士）の役割について学修した。作業療法士・理学療法士が勤務する施設（リハビリテーションセンター、大学病院、一般病院、精神病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションなど）と連携し、実習を行った。
2	地域コミュニケーション実習		6	乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に人と人が交わることで生まれる力動について学修した。学生は本実習において、他世代にわたる対象者と交流することにより、対人コミュニケーション術の修得を図った。
3	評価学実習		11	学生は対象者と面接・観察・検査・測定・情報収集という一連の評価法の流れを経験し、対象者の全体像を構築し生活上の問題点等を抽出して作業療法プログラムを立案した。学生が障害や疾患に対応した複数の施設で経験を積めるように留意した。
4	臨床実習Ⅰ		15	学生は医療施設や福祉施設において、臨床実習指導者の下で、「評価（面接、観察、検査・測定など）→治療プログラム立案→治療実施→考察→再評価→治療プログラム検討・修正」という過程を修得した。作業療法を実施する中で対象者および自己の変化を捉えるとともに、治療プログラムを検討した。
5	臨床実習Ⅱ		15	学生は、臨床実習指導者の下で、臨床実習Ⅰで経験した評価法や治療技術を基に、事例を担当して対象者の変化等を経験しながら、治療プログラムの変更、在宅・地域生活支援について学修した。対象者への作業療法プログラムの実施と援助方法や治療的存在としての作業療法士の態度や行動について経験を通じて学んだ。
(4) 論文指導				
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数
1	卒業論文		2025.4～2025.12	主指導5名副指導名
(5) その他				
	名称		期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	埼玉県立大学 非常勤講師		2025.11～2025.11	埼玉県立大学の加齢神経運動機能論をを非常勤講師として3コマ担当した
2	埼玉県立大学大学院博士論文審査 審査員		2025.10～2026.1	埼玉県立大学大学院博士論文審査で副査を務めた
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ 開催年月
1	脳卒中上肢運動障害に対する作業療法の 新展開: 脳刺激と人工知能の応用可能性.		日本作業療法士協会	第59回日本作業療法学会（教育セミナー） 2025.11

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	日本作業療法士協会	演題審査委員	2014.4～現在
2	日本作業療法研究学会	副会長	2024.8～現在
3	日本作業療法研究学会	理事	2014.4～現在
4	行動リハビリテーション研究会	理事	2011.4～現在
5	行動リハビリテーション研究会	編集委員	2011.4～現在
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容 期間
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	学科等における委員会等	東京家政大学大学院 HP委員会 委員	2021.4～2026.3
2	学科等における委員会等	国家試験支援部会 部員	2022.4～2026.3
3	学科等における委員会等	研究倫理委員会 委員	2023.4～2026.3
4	学科等における委員会等	FD委員会 委員	2023.4～2026.3
5	学科等における委員会等	入試委員会 委員	2023.4～2026.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		